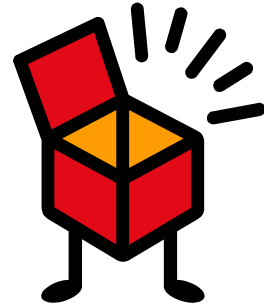



日立金属株式会社
2009年度業績概要



Materials Mag!c

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>
E-Mail : hmir@hitachi-metals.co.jp

2009年度業績概要

■需要動向

- 自動車関連分野 : 1Q前半は低調に推移したが3Q後半より回復が鮮明となり数量も増加
エレクトロニクス関連 : 液晶、半導体向けなど、アジアを中心とした旺盛な需要が持続し堅調に推移
産業インフラ分野 : 設備投資抑制の影響が残るものの、FA向けなど一部製品は回復傾向に転じる

■売上高・営業利益

・売上高 4,317億円 (08年度対比 73%)

⇒自動車関連の需要回復が遅れたことなどの影響が残り、予想に対し若干の未達

・営業利益 133億円 (08年度対比 △18億円)

⇒コスト削減効果(08年度比364億円減)および販売数量・稼働増による効果もあり当初予想を上回る

■セグメント別動向(売上高・営業利益)

・高級金属製品セグメント: 売上高 1,940億円(08年度対比73%)、営業利益 64億円(08年度対比 +7億円)

⇒工具鋼、ロールが在庫調整の影響を受けたが、液晶・半導体向けの金属材料が好調に推移。コスト削減効果もあり増益。

・電子・情報部品セグメント : 売上高 1,029億円(08年度対比75%)、営業利益 63億円(08年度対比△30億円)

⇒マグネットはIT家電・自動車向けともに堅調に推移したものの、アモルファスが中国市場で足踏みとなり減少。全体で減益。

・高級機能部品セグメント: 売上高 1,416億円(08年度対比75%)、営業利益 47億円(08年度対比+5億円)

⇒配管機器は国内の投資抑制の影響が続いたが、自動車用鋳物は海外市場で好調に推移。コスト削減効果もあり増益。

■その他

設備投資額: 165億円(08年度対比273億円減)、償却費: 305億円(同13億円減)、研究開発費106億円(同25億円減)

棚卸資産 : 09年3月末比 153億円減 (08/9末 1,302億円 ⇒ 09/3末 1,000億円 ⇒ 10/3末 847億円)

フリー・キャッシュフロー: 355億円(08年度対比401億円増加)

2009年度実績・2010年度予想



(単位:億円、()内は前年同期比)

	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度	
	上期実績	下期実績	年度実績	上期実績	下期実績	年度実績	上期実績	下期実績	年度実績	上期予想	年度予想
売上高	3,463	3,548	7,011	3,537	2,370	5,907	1,953 (55%)	2,364 (100%)	4,317 (73%) 予想比△83	2,430 (124%)	5,000 (116%)
営業利益	266	331	597	297	△146	151	△35 (△332)	168 (+314)	133 (△18) 予想比+33	154 (+189)	330 (+197)
経常利益	250	294	544	297	△195	102	△61 (△358)	161 (+356)	100 (△2) 予想比+35	128 (+189)	280 (+180)
(特別損益)	△6	△24	△30	0	△104	△104	△27 (△27)	△16 (+88)	△43 (+61)	△1 (+26)	△10 (+33)
税前利益	244	270	514	297	△299	△2	△87 (△384)	144 (+443)	57 (+59)	127 (+214)	270 (+213)
当期純利益	126	144	270	153	△183	△30	△57 (△210)	78 (+261)	19 (+49) 予想比+9	64 (+121)	140 (+121)
設備投資額	258	235	493	197	241	438	86 (△111)	79 (△162)	165 (△273)	110 (+25)	230 (+65)
減価償却費	140	154	294	153	165	318	149 (△4)	156 (△9)	305 (△13)	140 (△9)	290 (△15)
研究開発費	67	66	133	67	64	131	50 (△17)	56 (△8)	106 (△25)	65 (+15)	130 (+24)

2009年度業績概要(セグメント別)

売上高 4,317億円 08年度対比 73%

高級金属製品セグメント 1,940億円 (08年度対比 73%)
 電子・情報部品セグメント 1,029億円 (08年度対比 75%)
 高級機能部品セグメント 1,416億円 (08年度対比 75%)

* 最近の状況

■高級金属製品セグメント

特殊鋼の電子金属材料は半導体、液晶向けともに好調持続。工具鋼は流通在庫の削減が進み実需での回復基調に。ロールは在庫調整の影響を受け需要減少が続いていたが、4Qより回復基調に転じる。

■電子・情報部品セグメント

マグネットは、PC・家電向けは堅調、自動車向けもEPS等を中心とした環境対応関連が堅調に推移。FA向けも緩やかに回復。情報部品は円高の影響もあり減収。アモルファス(軟磁性材料)は、中国市場向けが需要足踏みとなったが、新規市場向けの販売を開始。

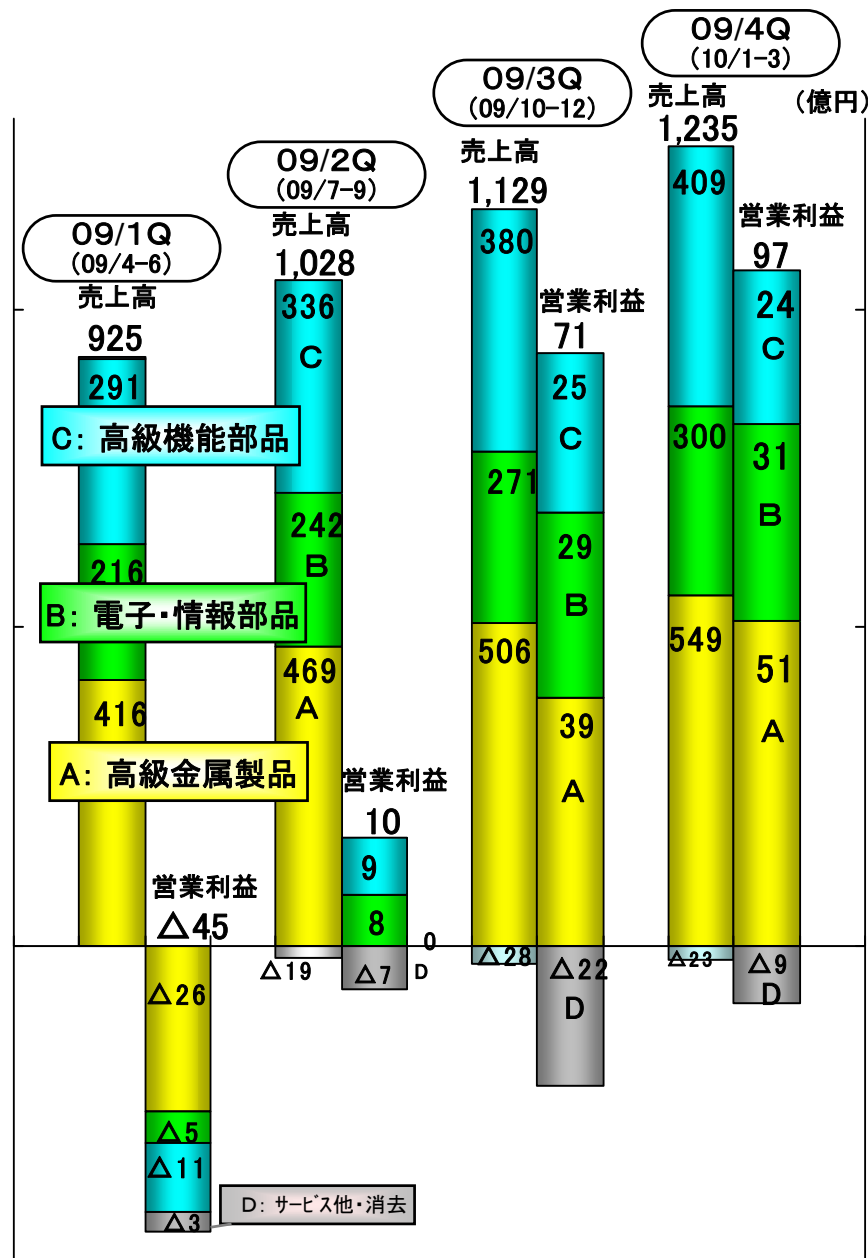
■高級機能部品セグメント

自動車用鋳物は、ダクタイル鋳鉄は米国を中心に好調に推移、日本・米国・韓国とも計画を上回る生産量に。ハーキュナイトは欧州を中心に増加。アルミホイールは日米ともに好調持続。配管機器は投資抑制の影響が続く。

営業利益 133億円 08年度対比 18億円減

高級金属製品セグメント 64億円 (08年度対比 7億円増)
 電子・情報部品セグメント 63億円 (08年度対比 30億円減)
 高級機能部品セグメント 47億円 (08年度対比 5億円増)

コスト削減効果に加え、販売数量および稼働増により、2Qより順調に回復。09/下営業利益は168億円となり、08/下に対し314億円、09/上に対し203億円の改善となった。



2010年度業績予想

売上高 5,000億円 前年度比116%
 営業利益 330億円 前年度比197億円増

■高級金属製品セグメント

売上高 2,230億円 (09年度対比115%)
 営業利益 180億円 (09年度対比116億円増)

■電子・情報部品セグメント

売上高 1,300億円 (09年度対比126%)
 営業利益 125億円 (09年度対比62億円増)

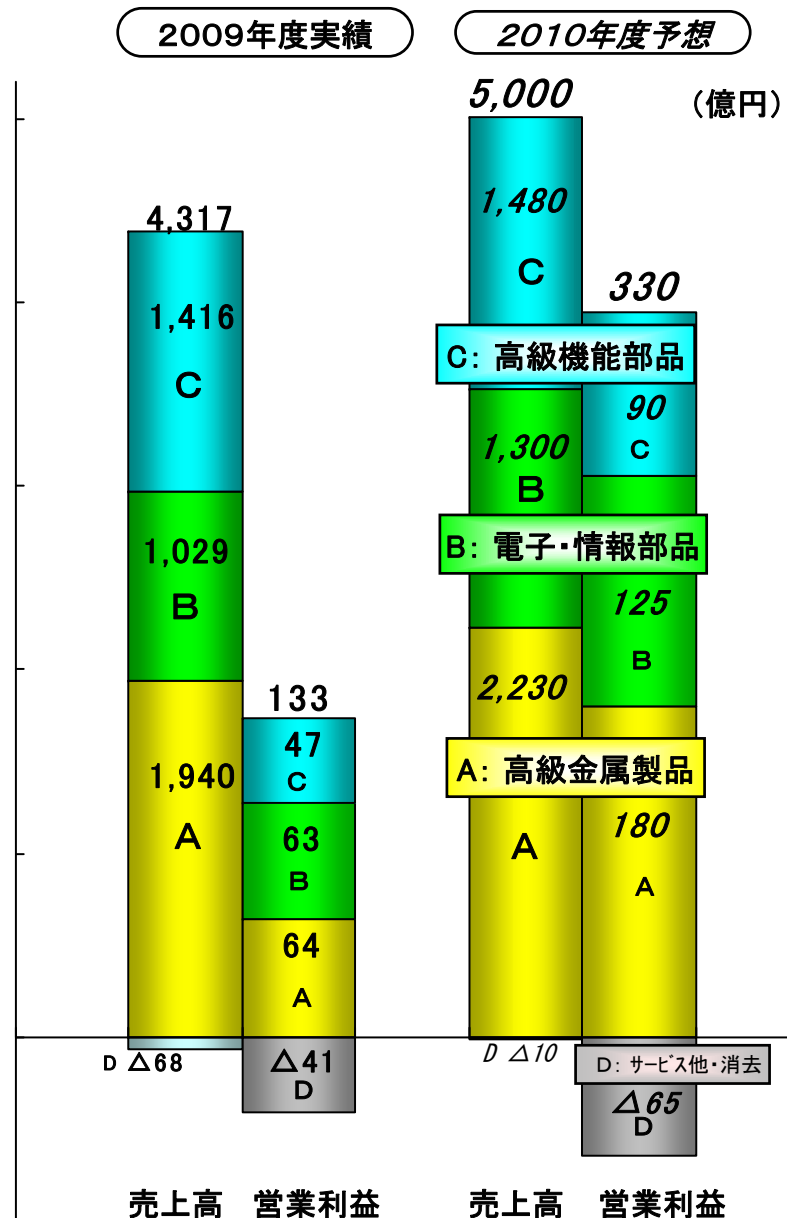
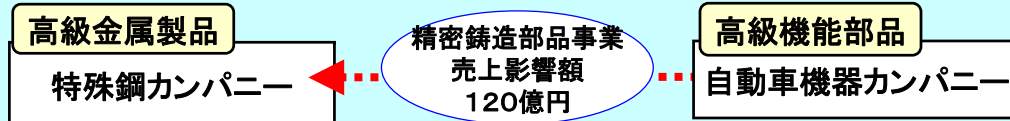
■高級機能部品セグメント

売上高 1,480億円 (09年度対比105%)
 営業利益 90億円 (09年度対比43億円増)

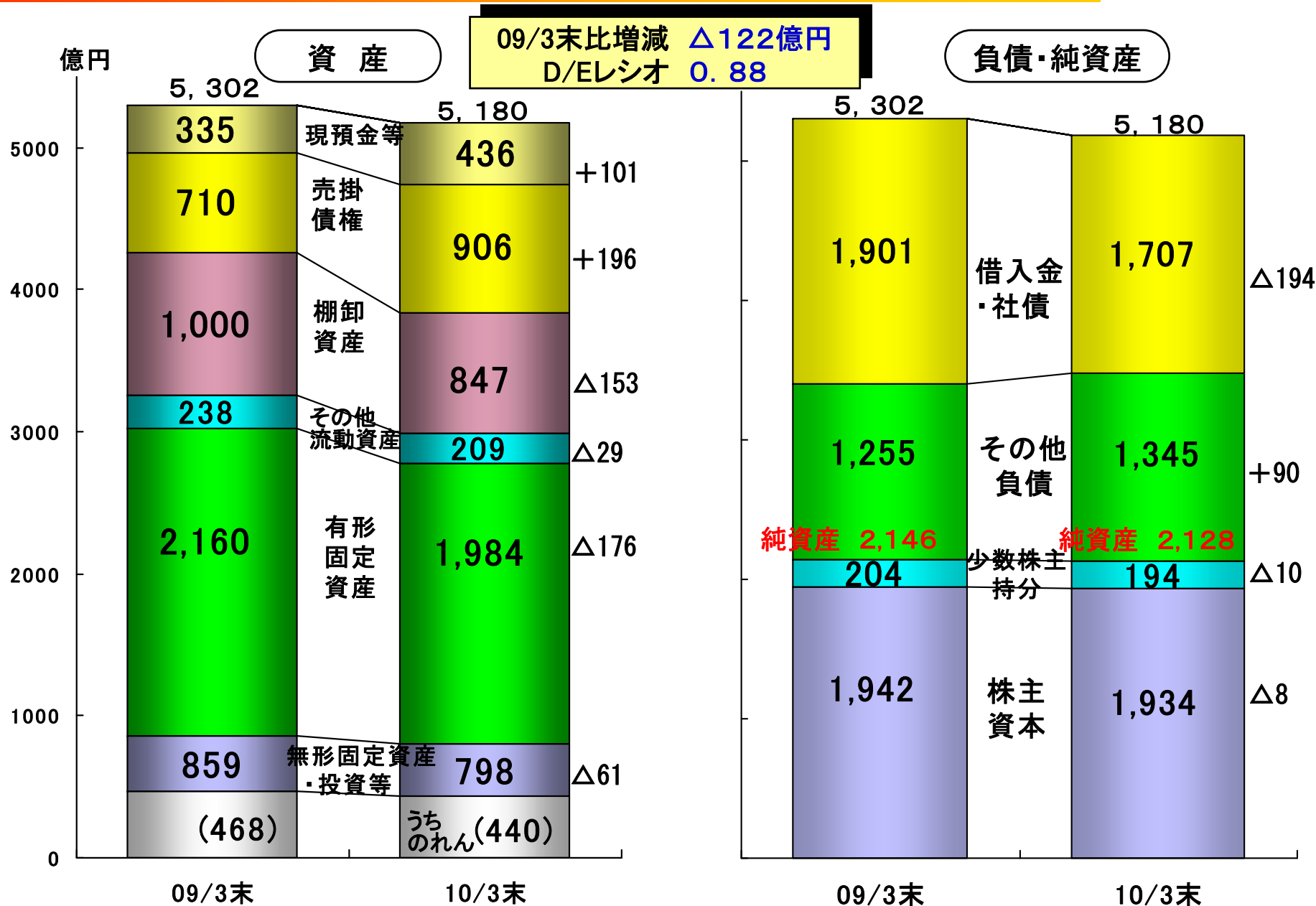
■サービス他・全社消去

売上高 △10億円
 営業利益 △65億円

- 自動車・エレクトロニクス関連分野とも需要は順調に回復、堅調に推移する見込。工具鋼をはじめとする一部製品の在庫調整も進み、実需ベースでの需要増に転じると見込む。
- 10年度から、高級機能部品セグメントの精密鑄造部品事業(子会社)を高級金属製品セグメントへ移管。特殊鋼事業とのシナジーを生み出し環境親和製品の拡販を図る。



2009年度連結B/S残高



2009年度連結キャッシュ・フロー



(億円)

科 目	08年度累計	09年度累計
現金及び現金同等物期首残高	478	335
税金等調整前当期利益	△2	57
減価償却費	318	305
設備投資	△437	△226
その他	75	219
フリーキャッシュ・フロー	△46	355
借入金・社債の増減	18	△184
配当金支払他	△83	△69
ネットキャッシュ・フロー	△111	102
為替換算差額他	△32	△1
現金及び現金同等物期末残高	335	436

(注) 設備投資は検収ベース、08年度は受取利息・配当、支払利息組替後

(参考)各セグメントの事業構成

高級金属製品

特殊鋼カンパニー

ロールカンパニー

日立ツールグループ

電子・情報部品

NEOMAXカンパニー

情報部品カンパニー

軟磁性材料カンパニー

高級機能部品

自動車機器カンパニー

配管機器カンパニー

日立機材グループ

サービス他

販売・サービス会社

その他製造会社



本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動